

令和 3 年度病床機能転換事業計画報告書

- 1 病院名：埼玉協同第 2 病院（仮称）
- 2 所在地：埼玉県川口市大字木曾呂弥右工門堤下 1306 他（地番）
- 3 病床機能転換概要

【変更前】

転換前病床機能区分	転換病床数（床）		整備事業内容	整備事業開始（着工）予定年月	整備事業完了（竣工）予定年月
	地域包括ケア	回復期リハ			
急性期機能	22	0	新築	2020 年 11 月	2022 年 3 月
備考	病床機能転換以外に増床する地域包括ケア病床 25 床				

※転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

※整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

【変更後】

転換前病床機能区分	転換病床数（床）		整備事業内容	整備事業開始（着工）予定年月	整備事業完了（竣工）予定年月
	地域包括ケア	回復期リハ			
急性期機能	26	0	新築	2021 年 12 月	2023 年 4 月
備考	病床機能転換以外に増床する地域包括ケア病床 27 床 （うち 2 床は、当法人の川口診療所の 2 床を移動するもの）				

※転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

※整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

○地域包括ケア病床への転換病床数を 4 床増やす理由や必要性、根拠等

地域包括ケア病床を有する「第 2 病院(仮称)」は、埼玉協同病院のリニューアル建設と併設するものです。埼玉協同病院の建設計画が進展する中で、産婦人科を含む新たな女性病棟の個室率をさらに高めるため、4 床室 2 部屋を個室 4 部屋に変更したことから、他棟で使用できる病床が 4 床できました。

この 4 床の活用方法を検討し、今後増加する高齢者の医療ニーズに対応するため、「第 2 病院(仮称)」の在宅療養を支援する地域包括ケア病床に転換することとしたものです。

○川口診療所から2床移動する理由や必要性、根拠等

川口診療所の2床は、埼玉協同病院と同じ医療圏内の法人内の同診療所にて、在宅支援型の有床診療所として病床の活用を検討し、埼玉協同病院から移転したのですが、医師体制などから十分に活用することができていませんでした。そこで、同じ医療圏内の「第2病院(仮称)」の開設に合わせて、取得見込みの「在宅療養支援病院」に病床を集中させて効果的に運用することとしました。

4 整備方針、目標

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

南部医療圏は、高齢化を背景として2040年ごろまでに、医療需要は1.24倍、介護需要は1.63倍にも増加することが推計されています。また、高齢者の増加に伴い脳こうそく、肺炎、骨折、心不全などの疾患が増大し、がん患者も1.5倍に増加することが見込まれています。

さらに高齢化を背景に要介護状態や認知症を抱えて入院が長期化する症例が増加すると考えられます。住み慣れた場所で治療を継続するためにも、今後も医療提供体制の整備拡充が必要な南部医療圏において在宅医療等を受けている高齢者等が肺炎や感染症などの疾患に罹患した場合の入院医療を提供できると考えます。よって、今回増床する地域包括ケア病床の機能と目的は、地域に激増する高齢者の医療ニーズに応えるための病床機能を整備することにあります。

○新たに担う役割

現在も埼玉協同病院では、管理患者数月50名程度の訪問診療に対応していますが、緊急の訪問診療に十分対応しきれていません。

しかし今回計画している第2病院は、訪問看護や訪問リハビリなどの機能を併設させることから、それらの在宅サービスとも連携することで、開設初年度より、現在の訪問件数の2倍強の訪問診療患者数に増やすことを計画しています。

川口市北部地域では、訪問診療に対応する地域医療機関も限られているため、地域包括ケア病床を有する第2病院が訪問診療を拡大することで、患者・家族にとって退院後も安心な療養環境を提供出来ると考えます。

地域の訪問診療に従事している医療機関にとっても、入院が必要な場合の紹介先として新たに地域包括ケア病床機能を有する医療機関が誕生することで訪問診療のバックアップを得ることが出来ると考えます。地域包括ケア病床のサブアキュートの機能は待ち望まれています。

○将来の方向性

南部医療圏の今後ますます増大する高齢者人口を背景に、急性期から回復期、そして在宅療養支援それぞれの機能の整備と拡充が求められる中で、地域包括ケアシステムを構築・拡充することが必要です。川口市北部地域では特に、在宅療養支援機能が不可欠になると考えており、申請している埼玉協同第2病院は、できるだけ早期に「機能強化型在宅療養支援病院」(24時間365日対応可能)の要件を整える計画であり、地域住民の医療・福祉分野に大きく貢献できると考えています。

この地域で 40 年来培ってきた、医療・介護連携の関係性を生かし、住み慣れた場所で済み続けることに当院としても貢献し続けたいと考えています。

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

開設から 40 年が経過した埼玉協同病院では、施設の老朽化等のため、特に病棟のうち建設年次の古い病棟は現在求められている急性期病床の機能を維持するには施設的な限界があるため、救急搬入の受け入れをお断りする理由が最も多いのは「受け入れベッドが無い」こと（2018 年度 437 件）です。また、当院が「地域医療機関からの依頼で断っている患者数」は、2018 年度 406 件です。急性期症状を改善した高齢者の栄養状態の改善やリハビリの必要な状態の治療期間に当たっては、ポストアキュート機能としての地域包括ケア病床に転院することで、今後ますます急増することが考えられる高齢者の救急要請に対応することができます。さらに、埼玉協同病院本院もリニューアルにより、急性期の機能をより高めていく計画です。

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 地域包括ケア病棟入院料 1	算定開始予定年月 2023 年 8 月
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)	
【増床前】	2018 年度実績の紹介受入数及びお断り 件数から年間の受入れ見込みを算出 【増床後】2018 実績で多かった医療機関 ◇ポストアキュート機能として 川口市立医療センターから 50 件 済生会川口総合病院から 20 件 かわぐち心臓呼吸器病院から 30 件 さいたま市立病院から 15 件 自治医大さいたま医療センター 10 件 戸田中央総合病院 10 件 など ◇開業医からのサブアキュート機能として さいわい診療所から 80 件 しみずクリニックふさ 35 件 青木中央クリニックから 30 件 浦和民主診療所から 30 件 芝西医院から 30 件 川口診療所から 30 件 悠翔会在宅クリニック川口から 30 件 こまくさ診療所 20 件 あずま在宅クリニック 15 件 ハーモニークリニック 15 件 など

	<p>◇介護・福祉施設の後方支援機能として 老人保健施設みぬま 40件 エスポワールさいたま 20件 老人保健施設あさがお 20件 特別養護老人ホーム翔裕園 20件 特別養護老人ホーム悠久の栖 20件 サービス付高齢者住宅ウエルハウス 20件 など</p>
<p>医療（介護）連携見込み（※具体的に記入してください。）</p>	
<p>【増床前】 ○紹介先：川口市立医療センター、埼玉県済生会川口総合病院、自治医科大学さいたま医療センターを始め411院所2324名を地域開業医や他県医療機関も含めて紹介をしている。</p>	<p>【増床後】 ○在宅診療のネットワークの連携拠点となるとともに、当院が有するリハビリ・スタッフ機能や病棟に勤務する歯科衛生士と協力したNSTチームなどの口腔嚥下機能改善、管理栄養士などと協同した栄養改善などの取り組みの実績を背景に地域の医療・介護力の向上に貢献していきます。 ○紹介先：紹介いただいた在宅支援診療所や地域開業医には必ず退院後紹介を行い、当院で継続して診療を行うといよりも地域連携をしながら、患者の療養の継続を図っていくことを基本とします。</p>

※届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料1」「地域包括ケア病棟入院医療管理料1」等該当するものを記載。

6 医療従事者（※確保予定の人員には、増員となる人数を記載してください。）

職種	2021現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	68		37.0	5		
看護職	328	106	74.8	30		
その他	321	184	127.8	18		
計	901	416	262	53		

確保状況・確保策、確保スケジュール

<p>【医師】</p> <p>2017年度から3年間の初期研修医の採用は、定数7名の連続フルマッチをしました。そこで、2020年度から定数を8名に増員したうえでフルマッチとなり、2021年度も8名の入職となっています。後期研修医や専攻医の入職も毎年3～5名、既卒医師も年間3～5名の採用実績があります。2019年から開院までの3年5.9名の常勤医師確保は可能と考えます。2019年度常勤(63人)、非常勤の常勤換算(15.8人)の計79.3人に対して2021年度は常勤(68人)、非常勤の常勤換算(37.0人)の計105人となり、当初の計画した確保数をほぼ実現できている。</p> <p>【看護職】 ※看護師、保健師、助産師、准看護師</p> <p>2019年時点で分院には常勤と非常勤看護師合わせて33.5名（常勤換算数）の看護師が必要と試算していました。毎年30～40名の新卒看護師、平均10名程度の既卒看護師が入職しています。2019年度には常勤看護職(307人)、非常勤の常勤換算(72.7)の計379.7人から2021年度には常勤看護職(328人)、非常勤の常勤換算(74.8)の計402.8人となっており、既に計画通りの確保ができています。※上記確保予定はは新入職員数。</p> <p>【その他】</p> <p>*当法人は医系学生の奨学生制度をもっており（医師、薬剤師、看護師、セラピスト、介護職等）学生時代の経済的支援をして、卒業後当院職員として働くことが計画でき、採用見通しがもてます。今後5～6年先まで複数職種の奨学生がいます。</p> <p>加えて毎年病院実習者、学校のつながりから多くの応募者があります。計画的な採用で2019年から開院までの3年で10名の確保は可能と考えます。</p> <p>中途採用者は紹介業者を活用することもあります。職員、医療生協組合員からの紹介や事業所の紹介御礼制度等を創設し、自前での確保も行っています。</p>
--

7 主な病院内施設・設備

転換・増床前	転換・増床後
	<p>これまで埼玉協同病院で行われていた外来診療機能のほとんどが移設されます。同じく、健康増進センターも移設されます。</p> <p>こうした外来診療、健診に必要な検査機能が整備される予定です。</p>

8 医療（介護）連携における課題、問題点

○市町村・ケアマネージャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズに行われているか 等

当法人では、市内に老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問看護・介護などの在宅支援サービスを展開しており、入院早期から退院に向けた支援を開始しています。また法人内事業所だけでなく、地域のケアマネ懇談会などを開催するなど、日常的に地域の介護事業所との連携強化を図り患者紹介なども積極的に行っています。

入退院時支援は月平均 230 件（2018 年度実績）行っており、入院直後からケアマネージャーから在宅生活での状況を確認し、退院後を見据えた入院治療を積極的に行っています。

退院時共同指導料は年 195 件の算定があり、退院後の療養生活に向けた移行をスムーズに行うための、情報共有やカンファレンスは日常的に実施しています。

8536 名の退院患者の中で、605 名は介護施設などへ入所していますが、入院当初より退院調整看護師や社会福祉士が支援し、病態に合わせた療養先の相談に乗っています。